

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第9回津有区地域協議会

2 協議事項（公開・非公開の別）

(1) 高齢者の交通手段に関する意見書について（公開）

(2) 次期委員への申し送り事項について（公開）

3 開催日時

令和2年2月13日（木）午後6時30分から午後7時30分まで

4 開催場所

ファームセンター 農事研修室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者 氏名（敬称略）

・委員：江平幸雄、太田政雄、塩坪貞雄（副会長）、清水昇一、中嶋博
服部香代子、古川昭作、保坂和彦、丸山常夫、宮越隆一、山菅節子
吉崎則夫（会長）、渡部稔（欠席1名）

・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【田中主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告

【吉崎会長】

- ・挨拶

【田中主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【吉崎会長】

- ・会議録の確認者：塩坪副会長

次第3 議題「(1) 高齢者の交通手段に関する意見書について」に入る。事務局に説明を求める。

【田中主事】

- ・資料1、参考資料に基づき説明

【吉崎会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

協議に入る。これまでの4年間で自主的審議事項として取り組んできた内容を昨年末に意見書としてある程度まとめた。しかし、意見書に記載している内容が地域の取組と重複しているため、取組方針を見直す必要がある。協議内容としては、まとめた意見書をどうするかということである。内容を変えて意見書を提出するのか、もしくは継続審議として次期委員に申し送るかのいずれかになると思う。これについて意見を求める。

【太田委員】

町内会長との意見交換会の前に高齢者の交通手段に関する意見書をまとめた。今まで協議してきたこともあるため、何も出さないというのはおかしいと思う。

【吉崎会長】

先ほどの事務局の説明にもあったように、意見書の内容については町内会長との意見交換会の際に、交通安全協会と調整する必要があると意見があった。しかし、意見書に記載している内容は既に交通安全協会として実施しており、効果が無かったとの回答であった。そのため、内容を変えて意見書を提出すべきか、もしくは継続審議とすべきかを決める必要がある。

【塩坪副会長】

継続審議とすると、次期委員が大変に苦勞すると思う。これまで自分たちも4年間にわたり協議したが、結論は出なかった。そのため、このまま同じテーマを協議しても同じことの繰返しになってしまうため、次期委員の負担になると思う。

【吉崎会長】

次期地域協議会が取り組む自主的審議事項の内容については、次期委員が決めるこ

とである。そのため、必ずしも自主的審議事項の内容を引き継いだとしても、継続してもらえとは限らない。

【宮越委員】

新たに他のことを検討する場合、今期委員が集まれる機会は多くても2回程度だと思う。しかし、今の自主的審議事項の内容を次期委員に引き継いだとしても、次期委員がどのように判断するかは分からない。どっちつかずの状況であるため、どう対応していくのが非常に難しい。1番楽なのは、継続審議してもらえることだと思う。そのため、今期委員の短い任期の中で新たなものを考えることは無理があると思う。

【田中主事】

継続審議について補足である。諏訪区では、自主的審議事項として移住促進に取り組んでいるが、前期委員から審議事項を引き継いで協議を続けてきた結果、実施団体の立ち上げにたどり着いた経緯がある。そのため、必ずしも次期委員に引き継いだからといって審議が途絶えるわけではないが、審議内容について継続するかを判断するのは次期地域協議会のため、それを踏まえて協議してほしい。

【江平委員】

高齢者の交通手段は大きな問題であり、津有区だけに関わる問題でもないため判断が難しい。だが、残された短い任期の中で違う結論を導き出すことも難しいと思っている。長い間協議してきた結果として、このような結論に至ったわけである。時間的なことも考えると、次期委員に引き継いでもらうしかないように思っている。

【服部委員】

次期地域協議会が自主的審議のテーマとして違うことを出すというのも、自分としてはなかなか難しいと思っている。これまで協議してきた大変であったため、逆に言えば今期地域協議会が取り組んできたことを継続してもらえるとよいと思う。また、次期地域協議会が自主的審議事項として違うものを協議したいのであればそれでもよいと思う。自分たちが4年間協議してきた内容を申し送り事項として引き継ぐことで、これまで協議してきた内容が理解できる気もする。

【山菅委員】

自分も服部委員と同意見である。少しずつでも動いていけばよいと思う。現在、小型バスも少しずつではあるが運行している。本当に少しずつだとは思いますが、動いていけばよいと思っている。そのため、次期委員に継続してもらえればよいと思う。

【吉崎会長】

他に意見等あるか。

(発言なし)

では採決を取る。意見をまとめると継続審議の意見が多数だったと思う。継続審議でよいと考える委員は挙手願う。

(全員挙手)

採決の結果、審議内容を次期委員に申し送り、継続審議とすることで決定した。

【吉崎会長】

以上で、次第3 議題「(1) 高齢者の交通手段に関する意見書について」を終了する。

次に、議題「(2) 次期委員への申し送り事項について」に入る。事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料2、資料3に基づき説明

【吉崎会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

現委員の任期満了にあたり、次期委員に申し送る内容について協議を行う。資料3に基づき協議を進める。始めに地域活動支援事業について意見を求める。

【中嶋委員】

4年間地域協議会委員を務めてきて、地域活動支援事業の審査が大きな目玉であったと思っている。年々申請数が少なくなっているため、原因は何なのかと考えている。希望額の100パーセントを支援される補助事業のため、今後は提案が増えていけばよいと思っている。協議会委員への申し送りではないのだが、申請がもう少し簡単にできて採択してもらうことができれば、もっと補助金を使いたいと思う人も多くなるように思う。だが市役所に提出する書類であるため、申請書を出すことが非常に難しいという状況が多分に感じられた。そのため次年度以降、少しでも地域住民に有効利用してもらえるように申請方法を簡単にして、配分額を残すよりも使い切ってもらえるようにしてほしいと思う。むしろ配分額が足りないと言われるくらいの何かを考えることができれば、もっと地域が活性化すると思う。

【吉崎会長】

多くの募集を出して欲しいということだと思う。事務局には、提案してもらえりような工夫が必要だと受け取ってもらえらばと思う。他に意見はあるか。

【古川委員】

地域活動支援事業について、今ほどの意見にもあったように年々提案が減ってくることについては、誰が原因ということではなく、やはり手続きが非常に面倒だといったこともあると思う。申請が減ってきていることについて、改善できないものかと感じている。

【太田委員】

地域活動支援事業について、自分が協議会委員になった際は多くの提案があったが、年々減ってきたような気がしている。地域の実情として、少子化の影響がものすごく大きいように思う。バレーボールのチームが地区内だけでは人数が集まらないため、違う地域の人と併合してチームを作っている。そのため、地域活動支援事業に提案したくても3つの地域にまたがっているために提案することができないと言われてしまう。野球も同様であり、上雲寺と戸野目が合同になっている。そんな状況であるため、活動団体がどんどん減ってきている。そういった状況も認められるような体制になれば、多少なりとも申請は増えるように思っている。また一部からよく言われることは、補助金の使い方に対する規制が強いため、申請できないとの意見も聞いている。それについても規制を緩和すれば申請が出てくると思う。

【渡部委員】

今ほどの意見にもあったように、少子化が顕著になっていることが現状である。スポーツ団体等も1つの地域で活動できなくなっているため、他地域と併合しながら活動している状況にある。過去に地域活動支援事業を活用した団体と意見交換をしたことがあるが、団体との話し合いの中で申請方法等を検討していければよいと思っている。そのやり取りのなかで、申請しやすくなることもあると思う。そのため、団体との意見交換を密にすることが必要だと思った。

【吉崎会長】

他に意見等はあるか。

(発言なし)

次に、「(2) 自主的審議事項」の申し送り事項について意見を求める。現状では意見書を出すことができなかった。

【太田委員】

その他の活動内容についてだが、まだ地域協議会の存在自体をよく知らない人が非常に多いと感じている。どんなことをやっているのか分からないという人が結構いる。また、地域活動支援事業も知らない人が結構いる。これについて次期委員に申し送りをすべきか分からないが、やはりもっとPRをする必要があると思う。

【吉崎会長】

今回の意見書についても、結局は地域のニーズが掴めていなかったというところがあると思う。そういったことも含めてどのように地域協議会の活動を知らせるのかという問題が出てくるように思う。それについては次期委員で地域協議会の活動等、周知を図っていくことが1つの課題になると思う。さらに次年度から地域協議会だよりも班回覧に変更となるため、認知される機会が減ると思う。そのため、地域協議会の活動内容を周知する方法をどうすべきかが問題となってくるように思う。

【宮越委員】

今ほどの太田委員の発言についてであるが、地域住民は地域協議会の活動を知らないというよりも、知ろうとしていないように思う。2月15日号の広報上越と一緒に地域協議会だよりの配布を予定しており、そこに3月3日の事前説明会の案内が記載されている。それを見れば大体は分かると思うが、知らないと言う人はただ見ないだけだと思う。そのため、いくらこちらからPRしたところで無関心な人は見ないと思う。それで知らないと言われても、それは言い訳でしかない。しっかりと地域協議会だよりは配布している。そのため、これ以上のPRをしたところで、どうにもならないと思っている。

【保坂委員】

以前に地域住民の意向を確かめるためにアンケートを実施した。もし次期委員が同じような方向を考えていくのであれば、やはり1人でも多くの地域住民からの意見を聞けるような工夫が必要だと思う。例えばアンケートであれば、母数を増やすための工夫をしてほしい。それと合わせてアンケートを取らなくとも地域協議会委員は地域で生活しているため、日常的に様々な機会アンテナを高くして、意向を汲む努力が必要だと思う。そういったことが大事だと思うため、次期委員に伝えておきたい。

【吉崎会長】

自分たちは地域協議会委員をしているが、一住民であるため考え方がずれていると

は思っていない。しかし、本当に細かいニーズについては、捉えられていなかったのではないかとの反省は残る。

【清水委員】

以前からずっと思っていることであるが、地域活動支援事業については申請されなければ審査することができず、予算を使うことができない。しかし、地域協議会委員がそういう方向に盛り上げることはできないため、地域協議会委員以外の方が盛り上げるようなかたちにもっていければよいと思う。また、先ほど意見のあった子どものスポーツ活動が地域内でチームを作ることが困難であり、いくつかの地域で合同チームになることについては、以前に街灯のLED化のために高士地区町内会長協議会と協議して申請したことがあったため、そのような方法をとっていけば可能だと思っている。地区ごとに固まってもできないことがあった場合には、そこまで広げていかないと無理だと感じている。自主的審議事項に関しては、テーマが大きすぎたように思う。先ほど山菅委員が発言したように、小さいことからコツコツとやっていくしかないと感じている。

【丸山委員】

まず、地域活動支援事業については、審査を行って来て最後は何となくマンネリ化していると感じた。最初の1年目は前期委員からの引き継ぎ事項で、各町内の街灯のLED化を目標としていた。こういったことが地域活動支援事業として提案できて予算も有効的に使えると考えてきた。2年目はそれを若干引き継いでおり、3年目には予算が余り、4年目にはさらに予算が余る状態となった。他の委員からも意見があったが、申請してもらうためには少しハードルが高かったように思っている。もう少し柔軟性を持ち、地域住民が要望していることを地域協議会委員がニーズに合った考え方を持てばよかったのだと思っている。例えば夏の暑い中、戸野目小学校で親と子どもが一所懸命になって野球をしている姿を見たが、地域協議会委員として見る価値があると思った。こういったところから申請があった場合には、頑張っただけという気持ちは補助してもよかったのではないかと感じた。次に自主的審議事項については、テーマがあまりにも大きすぎたように思っている。これまで協議した中で、自分はある程度年をとった際には免許証は返納すべき等の意見を述べてきた。しかし、それが本当に高齢者のためを考えた手段だったのかと考える部分もある。そのため、この場で自主的審議事項について意見をはっきりと言えないところである。自主的審議事項に

については次期委員へ引き継ぐこともあるため、また新たな違う意見が出ることを期待したいと思う。

【吉崎会長】

他に「(2) 自主的審議事項」について意見等はあるか。

(発言なし)

次に、「(3) その他の活動内容」の申し送り事項について意見を求める。

【丸山委員】

資料2の「3」の「地域との意見交換会」にこれまでに行ってきた内容が記載されている。自分が1番心に残っているのは、雄志中学校生徒との意見交換会である。意見交換会では幾つかの班に分かれて話した。その際に中学生が道路に空き缶を捨てる人がいるため、「空き缶を捨てるな」と書かれた看板を作って立てる、また各町内にチューリップのプランターなどを配布してコミュニケーションを図るようなことをしたいと話していた。当時、子ども達と一緒に話しをして、グループワークの中でそういった話が出た。その際、津有区だけではなく諏訪区や高土区の委員や子どもたちもいた。その中で、「空き缶を捨てるな」といった看板等を中学校の生徒から思い思いに作ってもらい立て、少しでも不法投棄のようなものをなくしてはどうかとの話が出た際に、ある委員からやたらに看板を立てても問題になるのではないかといった意見も出た。今のご時世、どこの地域でも道路には空き缶がかなり分散して捨てられているように思う。そういったことを少しでも無くすために大人ができないことを中学生に協力してもらえるのであれば、我々としても看板を立てることが問題といったことを考えるのではなく、不法投棄等を無くすことを優先的に考えるべきだと思った。少子高齢化で子どもの数も減っている中で、雄志中学校の生徒たちとの意見交換会は、続けていくべきであったと思っている。

【吉崎会長】

他に意見等はあるか。

(発言なし)

では、これまでの意見を次期委員への申し送り事項としてよいか。

(よしの声)

以上で、次第3 議題「(2) 次期委員への引き継ぎ事項について」を終了する。

次に、次第4「その他」に入る。事務局に説明を求める。

【田中主事】

- ・地域協議会に関する意識調査について説明

【吉崎会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690 (直通)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。